

今月の PICK UP

『わたしのeyePhone』 三宮 麻由子／著 早川書房 914.6 冊



通信社勤務の会社員兼エッセイストとして活躍している著者は、幼くして視力を失いました。学生時代を経て社会人になり、初めて一人暮らしをすると、日常に起こる様々な困りごとに直面します。そんな時、スマホデビューすることになり、格闘すること数か月、使いこなせるようになると、人に頼らず文字を読む、遠くにいる人にリアルタイムで助けてもらうなど、それまでの日常が一変します。

この“小さな四角い相棒”が自分にとって「掌の目」であり「救世主」と言うほどまでに、日常だけでなく心のあり方まで変わり、そのことが著者にとってどれほど大きなことだったのか、ということが細やかに綴られています。

『美しいブックデザイン』 デザインノート編集部／編 誠文堂新光社 022.5 冊



本の第一印象を左右すると言っても過言ではない表紙。本書は、そんな表紙を含むブックデザインの実例を21名のデザイナー本人が解説しています。既知の本に込められた思いを知って新鮮な気持ちを抱いたり、「こんな本があるのか」とユニークな本に驚いたり。眺めているだけで楽しい1冊です。

司書の
おすすめ

『きょう、ゴリラをうえたよ 愉快で深いこどものいいまちがい集』 水野 太貴／文

吉本 ユータヌキ／イラスト 今井 むつみ／監修・解説 KADOKAWA 810.4 冊

言葉を覚えはじめたばかりの幼い子どもたちはよく言い間違いをしますが、実はそれらは文法のルールに則っていたり、言語の本質を突いていたたりすることもあります。本書はそんな子どもの言い間違いを集め、解説を加えたものです。おかしくもかわいらしい子どもたちの言葉を楽しみながら、奥深い言語の世界に踏み込んでみましょう。



『なぜか買いたくなる“もちもち”の秘密』 藤野 良孝／著 青春出版社 674 冊



店頭で思わず手に取った商品や、なぜか気になる商品はありませんか？ 実はそれらの商品のパッケージやCMキャッチコピーなどには、「パワーワード」という秘密が隠されていることが多くあるのです。著者は“もちもち”や“サクサク”などのオノマトペ（擬態語や擬音語）を「パワーワード」と定義し、人の心を一気につかむ「パワーワード」の不思議についてまとめています。

『パンダを飼ったらいくらかかる？』 北澤 功／著 日経ナショナルジオグラフィック 480.7 冊

動物園にいる動物を家で飼えたなら、と考えたことはありませんか？ ちなみにパンダは1日あたり21万6166円必要です。楽しくすごせるように、滑り台のある遊び場も用意してあげましょう。

獣医師で動物園に勤務経験のある著者が、それぞれの動物の生態を説明し、飼育方法を楽しく解説しています。動物によって快適な環境が実に様々であり、一緒に暮らす楽しさと大変さが妄想体験できます。

